

人と人が互いに信頼関係を深め、未来のつくばを見据え、地域内が繋がり、他国の文化を受け入れ、市民の笑顔をお願いその運動が一つの和となり誰もが輝く、先進都市つくばへ

【～はじめに～】

つくばエクスプレスの開業から10年以上が経ち、圏央道も開通し都心がより身近に感じられるようになりました。大型ショッピングモールが軒並み建設され、人口は増え続け、街としての成長を遂げております。その一方で、地域格差が生まれ、人と人との繋がり希薄化が進んできています。従来から市内に住まわれている方と、つくばの発展と共に新たにつくばに住まわれた方との我が街に対する意識の差も存在しています。そんな現状を打破するために、私たち青年会議所が地域に住まう人同士のパイプ役となり、歴史ある地域と新たな地域を繋げ、皆が笑顔になれる街づくりを共にしましょう。そして、つくば市は県内のみならず国内においても有名な学術研究都市です。しかし、研究機関等が身近にあるにもかかわらず地域資源が上手く生かされていないのが現状です。学術研究の粋を集めた街としてその地域資源を有効活用し、研究機関・大学・行政と連携しつつ、つくば市の未来像を創造し先進都市つくばを広げ新たなムーブメントを起こしていきましょう。

メンバーの皆さんは今どんな事を思い、どんな事を感じ、どのようなスタンスで青年会議所の運動を行っているのでしょうか？ 青年会議所の運動を自己成長に繋がっているのでしょうか？ 青年会議所への入会のきっかけは、「仕事に繋がるから」「先輩に誘われたから」「友達や先輩がいるから」「会社の上司に言われたから」動機は多種多様です。しかし、入会をされたのはまぎれもなくご自身で決断されたのだと思います。私は、青年会議所は自己成長につながる最良の場だと思っています。明るい豊かな地域をつくるという、社会への良きインパクトを与えるためには、まず自分自身に良き変化を起こさなくてはなりません。自己成長をし、そこで得た知識や経験を地域の方々に伝え、前向きに地域について市民の皆様が考え、共に取り組んで頂くようにする。自己から始まり地域により良い変化をもたらす事が大切なのです。そのために自己成長が重視され、自身が成長できるあらゆる機会がこの組織に包含されています。青年会議所運動を行う事により家族、友人や会社の方々にご負担をかける事は正直あるかもしれません。だからこそ、そんな方々から頂いた機会に感謝し有効に使い自己成長を共にしましょう。

36年目の歩みを進めるに当たり再び団結し、先人たちの思いを継承しつつ自己成長と共に先進都市つくばに繋がる運動に邁進しましょう。

### 【人と人が互いに信頼関係を深め】

皆さんはどういった目的で青年会議所に入会されたのでしょうか？ 一度、立ち止まって考えてみてください。つくば青年会議所の現メンバーの中にももしかしたら、よくわからないけど入会してみたという方もいるかもしれません。しかし、いざ入会の決断をした時には、入会の「目的」を持たれた事でしょう。自分を磨きたいとか、仕事を受注するためとか、人脈を広げたいとか、様々な目的があったかと思います。その目的を今一度思い出してみてください。皆さんはいま、その目的を達成できているのでしょうか？ 入会して2、3年なんとなく過ぎてしまっていないのでしょうか。再び目的意識を持ち青年会議所運動に参加し、青年会議所に対する思いを皆で共有し信頼関係を深め邁進する事が重要です。そして、自らの意識を変え、街の人々の意識を変革してこそ「意識変革団体」としてのJCのあるべき姿であると考えます。また、その思いを新たな仲間へ伝え会員の拡大を図りましょう。また、会員の拡大は青年会議所メンバー一同が団結し進めなければいけません。誰かがやるのではなく全員で信頼し合える仲間を増やしましょう！

### 【未来のつくばを見据え】

青少年が健全に育つためには、環境が最も重要であります。その青少年を取り巻く環境の中には、家庭、地域、学校、友情といった様々なファクターがあります。つくば青年会議所がつくばならではの青少年教育を行う場合に、多くの研究機関が存在する地という「地域」のファクターを活用する事が最適です。各研究機関の近くで生活していても、実際にそれらを身近に感じているご家庭はそれほど多くないでしょう。まずは、地域に存在する研究機関が何を行っている施設かを理解し、行われている研究が実際の社会でどのような役に立っているか、貢献しているかという部分まで認識し学んで頂きたいと考えております。その上で、学んだ研究機関での研究成果を鑑みつつ、つくばの豊富な自然環境に身を置いて生活する中で得た気づきを加え、既存の研究を超える新しい発想や新しい価値観を生み出して欲しいと思います。我々は未来のノーベル賞をとる人財がこのつくばの地から出る事を願います。また、つくば市内には多くの海外の方が住まわれています。そんな多文化が行き交う未来のつくばを見据える上で、子供のうちから海外と私たちのそれぞれの文化の長所を理解し融合させ、新たなものを生み出していく意識を持つ事が重要です。海外の子供たちと日本人の子供たちの交流により、文化の枠を超えて互いに信頼を生み、互いの見聞や認識を高めていくそんな子供たちが溢れる街にしていきたいと思います。

### 【地域内が繋がり】

市民のライフスタイルの変化に伴い、地域コミュニティ内での繋がりや家族の絆が失わ

れて久しいです。「茨城都民」という言葉が生まれたように、東京に通勤していて、地元には寝に帰るだけという生活を送っている方々が増えており、まちづくりに無関心なだけでなく、隣に誰が住んでいるかわからないという方々も決して珍しくはありません。そのように、世帯毎の生活で住民は手一杯であり、地域コミュニティで生命や生活を守るという意識が少なくなってしまうています。東日本大震災が発災し一時は災害に対する意識の向上が見られましたが、5年以上が経過した今、意識は薄れ、災害時に地域の方々が手を取り合って助け合うネットワークが十分に発達しきれていないのが現状です。そのような中で、行政と連携し、市民の防災意識の向上を目指す事が必要なのではないでしょうか？ つくば市が経験した数々の災害も風化させずに、次世代にしっかりと伝えていきつつ、防災意識の向上に繋げてまいります。地域コミュニティ全体で生活を守るという点において、きれいな安心して住める街にするために、環境保全への取り組みは避けては通れません。現在、ゴミのポイ捨てや公共施設への落書きも減りつつあるものの、完全になくすまでには至っていません。完全になくすためには汚されている事に対する対症療法ではなく、その根本にある「汚さない、汚させない」という、市民一人一人の意識変革が必要です。皆が環境保全を身近な問題として捉え、自らが行動する意欲を持つ様な環境保全運動を行いましょう。そして、それらの運動を広げ新たな環境コミュニティをつくってまいります。

#### 【他国の文化を受け入れ】

つくばと言えば、言わずと知れた国際都市です。しかし、国際都市と言われても、その実感は市民の中に個人差があるのではないかと思います。インターネットの普及や交通手段の発達により、ものすごい勢いでグローバル化が進んでいます。海外を身近に感じるようになり、海外と日本文化の違いを肌で感じ初めて、日本の伝統文化や習慣、技術等の潜在的な魅力に気付くようになったという方も少なくないのではないのでしょうか？ グローバル化は海外文化や習慣に迎合する事では無く、日本の地域の文化や習慣、誇るべきものを正しく認識し、伝え、人相互の交流の中で海外文化と融合させ新たなものを創っていく事です。それが国際都市としてのつくばの発展に繋がります。市民の皆様には、つくばに住み暮らす海外の方々に日本の文化を伝えると同時に、他国の文化を受け入れて頂き相互に繋がって頂きたいと思います。また、未来のつくばを見据える上で、未来を担う海外の子供たちと日本の子供たちの相互の文化を受け入れる交流が必要です。子供の頃から互いの文化を理解し発展へと繋げていく事で、互いの利点を生かし、多方面において新たなものが生まれる連鎖が起こる街にしていきたいと思います。

#### 【市民の笑顔を願ひ】

「The祭in TSUKUBA」ねぶたパレードは、昨年で20周年の節目を迎え、本年で21回目を迎えます。新たな歩みを進めるにあたり何故、この地域でねぶたパレード

が行われたのか？ 何故、20年もの長きに渡り衰退する事なくこの事業を行う事ができたのか？ そして、今、本当に必要とされているのか？ についての検証が必要です。毎年、市民の皆様をはじめ多くの方々の笑顔が見られるまつりとなりました。しかしながら、開催場所でもある、つくばセンター地区に目を向けるとどうでしょう？ 西武百貨店の撤退以降、活気が薄れているように感じます。この地区で行われるまつりはこの地域を再び活性化させる起爆剤になり得るものです。再びつくばセンター地区の活気を取り戻すと共に、どのような発信が必要とされているのか見出し5年後、10年後のかたちを見据える必要があります。街を賑わせ、市民の皆様をはじめ多くの方々の笑顔を絶やさないために共に考え、皆で力を合わせて取り組んでまいりましょう。

つくば市において唯一無二の財産は筑波山であると考えます。つくばエクスプレスの開通・圏央道の開通により筑波山を訪れる登山客は増えて参りましたが依然として経済効果には繋がっておりません。今こそ、筑波山周辺地域の方々と共に当該地域の活性化に取り組む事が必要です。本年度10回目を迎える「ツール・ド・つくば」は健康増進や環境保全、そして地域の観光促進を目的に開催してきました。しかし、本当にこの事業が地域の活性化に貢献できているのか？ を捉える必要があると考えます。そして来年には、このつくばの地で「第74回国民体育大会」の自転車ロードレースの開催が決定しております。新たなかたちを検証し地域活性化のために共に団結し考えてまいりましょう。

#### 【組織づくり】

つくば青年会議所は明るい豊かな社会の実現に向けて多くの公益的事業を展開しております。運動を展開するにあたっては、我々の運動を多くの方々に周知し関係各所と連携し共感を得て頂く事が必要です。そのために、ホームページやSNSを利用して多くの皆様に青年会議所の運動や事業・組織の団結力を発信して参ります。そして、各報道機関と連携しつくば青年会議所の運動を広域的に発信しつくば市とつくば青年会議所の団結を発信してまいります。また、つくば青年会議所は出向先において気概と覚悟を持って頑張っているメンバーがおります。しかしながら彼らの行う運動の情報がメンバーに周知されないがために頑張りがよく伝わっていないのが現状です。出向者の情報や組織の運動展開の情報を共有し共感してもらうためにスケジューラーを配信します。これによりつくば青年会議所は団結している組織づくりを行って参ります。さらに、ASPAC誘致を総会決議しているLOMとして第68回JCI ASPAC鹿児島大会にブースを出展し、国際都市つくばの団結を発信していきます。また、信頼し合い、同じ志をもって運動展開をして下さった卒業生の皆様に敬意を表し、卒業生が主役となる事業を開催致します。将来の理事メンバーを見据えて財務運営幹事会議を毎月開催し、会計の適正運用の審査は勿論の事、費用対効果や公益性の審査も行っていきます。この会議は成長をする場でなくてはなりません。各委員会の問題提起を行い円滑な委員会運営を行う意見交換の場としても活用して参ります。各運営幹事が密に連携を取り出席率の向上、各種大会並びに諸会議への参加推

進、出向者への支援を行い、財務運営幹事会議が将来を見据えた会議となる様に運営を行って参ります。私たちが団結し、明るい豊かな社会の構築に効果的な運動を進めるためには総会、理事会等を円滑に運営し運動に対する議論を深めていく必要があります。効率的な運営をするためには、事前の議事内容の精査と事前の情報共有が重要となってきます。これらの事前準備をしっかりと行い、組織が団結し一つの和の下につくば青年会議所の運動が地域に良きインパクトを与える様に取り組んで参ります。また、連絡事項や物品の管理等、組織運営上必須となる各種管理事項についても徹底し、組織運営が円滑に行われるように致します。

我々は青年であり経済人であります。日本経済は、景気の低迷が続き先行きの見えない状況から抜け出せずにいます。この状況を打破するためには、若さと無限の可能性を秘めた私たち青年の力が必要です。青年経済人に必要な素養を習得する機会を創出し、地域の発展に寄与するたくましい青年経済人を育成しなければなりません。共に悩み考えている事を共有し真の経済人を目指していきましょう。また、そんな仲間を増やしていきましょう。

#### 【結びに】

今こそ団結して共に歩もう、失敗を恐れずに進もう、共に信頼し合おう。

その先には、自己の成長が必ずある。

その先には、街の活性化が必ずある。

それぞれの団結が一つの和となり先進都市つくばへと繋がる。